

## 会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成30年度 第3回美里町生活支援体制整備協議会

2 開催日時 平成31年1月28日(月)午前10時から午前12時まで

3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室

4 会議に出席した者

(1) 委員 小野俊次会長、佐々木義夫委員、角田フミコ委員、伊藤秀司委員

(2) 事務局 美里町長寿支援課 相原浩子、横山太一  
美里町社会福祉協議会 浅野恵美、永沼威雄、田村紗希、高橋ゆかり

(3) その他

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議題

(1) 報告

地域福祉力UP情報交換会(不動堂地区・南郷地区)について  
平成30年度児童による高齢者生活支援体験事業  
「ぼくたち・わたしたち 暮らしのてつだい隊」について  
支え合い情報紙「おげんきですか。第5号」について  
生活支援コーディネーターの活動報告について  
前回の振り返り

(2) 協議事項

地域で行われている健康づくり・介護予防の取組状況について  
生活支援体制整備協議会啓発事業について～宝物の見える化・見せる化～

会議の公開・非公開の別

公開

## 6 非公開の理由

## 7 傍聴人の人数

0人

## 8 会議資料

別紙のとおり

## 9 会議の概要

### (1) 議題の審議結果又は今後の対応

#### <協議事項 >

地域で行われている健康づくり・介護予防の取組状況について

生活支援コーディネーターの地域訪問や委員の事例等から、介護予防は社会性が重要であり、一人で身体を動かすよりも複数で身体を動かすことが効果的であることを共通理解した。

今後、介護予防を推進するにあたり、社会性の低い方や関わりを拒否する方との関係構築が課題として挙げられ、継続的に地域活動や行事の案内をするとともに、適度な距離感を保ちつつ関係性を構築していくことと身近な相談窓口としての区長や民生委員を支える仕組みづくりを検討していくこととした。また、すでに地域で行われている健康づくりの取り組みを活かしながら、一人ひとりに合った多様な通いの場の構築が求められていることを確認した。

#### <協議事項 >

生活支援体制整備協議会啓発事業について～宝物の見える化・見せる化～

これまでの協議を踏まえ、支え合いの地域づくりの推進するためには、「宝物」＝「地域のつながりから生まれる支え合い」であることを広く地域住民と共有する必要があることを再確認した。また、健康づくり・介護予防の取り組みをテーマに生活支援体制整備協議会啓発事業を実施することで、地域の「お宝」を共通理解するとともに、「支え合いの地域づくり」を推進することについて合意形成を図った。

生活支援体制整備協議会啓発事業の実施にあたり、詳細について協議した。見せる化の目的と意義について確認した。

今後、地域情報の収集については、協議会委員にも協力をいただくこととし、来年度からは、区長会や各団体の総会等へ参加し、生活支援体制整備事業を説明・啓発していくこととした。

( 2 ) 詳細な意見

高橋	これより、平成30年度第3回美里町生活支援体制整備協議会を開会します。1.開会の挨拶を美里町生活支援体制整備協議会の小野会長からお願いします。
小野会長	本日は第3回美里町生活支援体制整備協議会ということで、報告と協議事項があります。 先日、大崎市古川のパレットおおさきで行われた宮城県生活支援コーディネーター研修の「地域のお宝発表会」で、花野果市場で一服を楽しんでいるメンバーが登壇し、壇上で話をしてくれました。非常に良い研修会でした。今後も地域の中で研修や発表の場があると思いますので、機会があればまた出席したいと思っています。 今日は正午まで、いろいろなお話をいただければと思います。
一同	よろしくお願いします。
高橋	2.署名委員の選出に入ります。 本日は、JAの佐藤委員と、商工会の遠藤委員が欠席ということで、委員4名が出席しています。どのような選出方法にするか、みなさんにおはかりします。
一同	事務局一任
高橋	それでは、小野会長と佐々木委員のお二人にお願いしてもよろしいでしょうか。
小野会長・佐々木委員	はい。よろしくお願いします。
高橋	それでは、お二人にお願いします。 次に、3.報告に入ります。(1)地域福祉力UP情報交換会(不動堂地区・南郷地区)について、事務局の永沼より報告します。 お願いします。
永沼	それでは本資料1ページをご覧ください。地域福祉力UP情報交換会について報告します。 不動堂地区の情報交換会についてです。不動堂地区社協と町社協との共催で11月20日、駅東地域交流センターを会場に行いました。 まず初めに、昨年度までの情報交換の振り返りとして「手伝って」とSOSを出せない方がいる、見守りと声がけを意識して行っていくことが大切である、今ある活動を見直しながら改めて活動を意識して広げていく、といった意見が上がったことを共有し、今回のテーマ「地域内の見守りあい活動の推進に向けて」について、行政区ごとにグル

ープになり、大きく分けて三つについて協議しました。

一つは「なぜ見守りあいが必要なのか」について話し合っていました。「地域の中で孤立させないための方策」「地域づくりの基本」「声のかけ合いによるつながりづくり」「お互いさま」ということ、それから「見守り」という言葉ではなく「気にかけて合うこと」という言葉も出ていました。それによって意識づけもされていくのですが、「お互いに気にかけて合うということ」が自然と見守りにつながっていくのであって、見守りだけのためにやっていることではないというような話も出されました。

あとの二つについては、自分が見守る立場／見守られる立場になった場合の場面想定で話し合っていました。

見守る立場では、「監視ではなく気にかけて合う」「困った事があつたら言って」を繰り返し伝えていったり、プライバシー、個人情報をきちんと扱うことが大事だということであったり、対象の方のお宅を訪問するだけでなく、行事などの機会も利用して見守っていったらどうかという意見もありました。

見守られる立場では「程よい関係で、深入りされるのはちょっと…」という関係性のことや、プライバシーの配慮がきちんとされていないと嫌だ、という話がありました。やはり、話し相手になってくれる人が欲しいということや、何かお願いするにしても手伝ってと言っているか迷う、という話がありました。どこまで踏み込んだらいいのか、どこまで踏み込んでもらったらいいのか、と双方思うところがあると感じました。

本資料2ページは、南郷11地区社協と合同で11月29日に生き生きセンターで開催した情報交換会についてです。

不動堂地区で出た内容と同じような話が、南郷地区でも出てきました。資料右側が具体的に出されたものです。共通しているのは「地域の中で孤立している人を無くすため」「見守り合いは高齢者だけでなく、年代を問わず地域で必要なこと」などです。また「一人ひとりを尊重して関わりあうことが必要」という話もありました。

自分が見守る立場／見守られる立場というテーマで不動堂地区と共通している部分は「プライバシーの配慮」「(お茶飲み会や回覧板等の)いろいろな機会を利用する」などが挙げられました。

「自分も何か恩返ししたい気持ちになる」という、お互いに何かされたらお返ししたいという気持ちは誰にでもあるのかなと感じました。

これらについて、現在、美里町社協が中心となって策定中の第三次

	<p>美里町地域福祉活動計画という3年間の計画の中に盛り込み、協議を進めているところです。報告は以上です。</p>
高橋	<p>ありがとうございます。みなさんから質問や意見はありませんか。無いようですので(2)平成30年度児童による高齢者生活支援体験事業「ぼくたち・わたしたち ぐらしのてつだい隊」について報告します。</p> <p>平成30年12月26日と27日の2日間、児童を対象とした高齢者の生活支援体験事業を開催しました。両日で延べ17名の参加がありました。夏に同じ事業を行った時はコーディネーター役として社協職員が入りましたが、今回は地域とのつながりづくりも意識し、民生委員とサロンサポーターに協力いただきました。その様子を、本資料4ページから7ページまで写真で掲載しています。</p> <p>お手伝いだけでなく、昔のアルバムを見せてもらったり、点字を教えてもらったりと、お互いさまの関係ができたのかなと思っています。仏壇の掃除もさせていただいたりして、子どもたちにとって、とても貴重な時間になったようです。</p> <p>本資料8ページから10ページまでが子どもたちの感想文です。11ページから12ページまでが保護者の方のアンケート・感想です。時間がある時にご覧ください。今回は民生委員やサロンサポーターの方々に協力いただいたこともあって、地域とつながるきっかけになったと思っています。この事業は、体験をして終わりというものではなく、私達が地域に出向いていった際に話題提供させていただきながら、大人による「ぐらしのてつだい隊」のきっかけづくりにもしてもらえたら良いと思っています。</p> <p>民生委員である角田委員にも協力いただきました。その時の感想をお願いします。</p>
角田委員	<p>最初、参加した子どもたちは、何から話していいかわからない様子でした。訪問先の高齢者は、孫もひ孫もいる方でしたから、笑顔で待っていてくださり、お茶の時間から会話が始まりました。最近は核家族の世帯が多いので、良い経験になったと思います。とても喜んでいました。</p> <p>おじいさん、おばあさんと同居せず、お互い遠くに住んでいる子どもほど、高齢者と何を話したらいいか、どう声をかけていいかわからないと思います。</p>
高橋	<p>迎える側の高齢者にも役割が生まれ、子どもたちも自分にできるこ</p>

	<p>とを發揮できることから、双方向に効果があつて良かったと思います。</p>
浅野	<p>主催は美里町社協、共催は美里町生活支援体制整備協議会で行ったのですが、もう一つの目的として、保護者の方々に高齢者の生活や支え合いについて考えてもらいたいと思って、子どもを対象にしました。今朝、私の家でブレーカーが落ちたんですね。「どうしよう」と母が慌てており、これが一人にいるときに起きたら、どうしたんだろうと思いました。こういったことを、若い親の世代にも、子どもたちの言葉を通じて考えていただいて、今すぐ地域貢献できないかもしれないけれど、少しそういうところを育てていきたいと思っていました。</p> <p>年末に梅ノ木行政区で行われたことについて、永沼より話題提供いただけますか。</p>
永沼	<p>はい。梅ノ木自治会で12月21日、地区内の70歳以上の一人暮らしの方々を手伝う生活支援事業が行なわれました。3年前から実施しているということで、私と生活支援コーディネーターの高橋がお邪魔して話を聞いてきました。</p> <p>当日は4、5人の対象者宅に、自治会の役員が台所の水回りや蜘蛛の巣はらいなどの年末大掃除を手伝っていました。</p> <p>事業のきっかけは、地域福祉力UP情報交換会をもとに、栗原での年末掃除お助け隊の事例を聞いて、青生地区社協で栗原に視察に行ったことです。視察先で取り組みを聞き、地区社協としての実施は難しいけれど自治会として開催し、今に至るそうです。自治会長からは「あまり広報しないで」と言われていますが、こういった生活支援が地域の中で行われています。報告は以上です。</p>
角田委員	<p>一つだけ、先ほどのコメントに付け加えたかったのですが、高齢者の方から、お礼に「わたし、歌をうたいます」と歌を披露してくれました。その歌がテレビで流れている歌謡曲ではなく御詠歌で、子どもたちは感動して聞いていました。人生とか、人に対することとか、生きることを歌ったものなのですが、子どもたちもよく理解できる内容で、私も感動しました。普段、見せない一面をみることができました。</p>
高橋	<p>ありがとうございます。ほかの民生委員さんも「茶の間までは入ることはあるけれど、それより奥の部屋に入ることがなかなか無く、今回参加し生活の様子がより伝わった」という声が聞かれました。今回の対象は子どもたちでしたが、来年度は大人に向けても生活支援について啓発していきたいと思っています。</p>

	<p>次に(3)支え合い情報紙「おげんきですか。第5号」についてです。みなさまの手元にあります。今回は、若い世代にも読んでもらいたい思いから、若いママと子どもの写真を表紙に掲載しました。今回のテーマが介護予防・健康づくりというところがありまして、情報紙2ページに「『地域みんなで取り組む 介護予防』を応援します」という記事を書きました。3ページには遠田商工会の地域づくりの取り組みを紹介しました。4、5ページの「美里町のお宝紹介」に三つのグループを掲載しました。</p> <p>ここで、(4)生活支援コーディネーターの活動報告についても合わせて触れさせていただきます。地域に訪問し、活動からいろいろな支え合いが生まれていると実感しています。普段の何気ないつながりを意識してみると、実は大きな宝物だと思いました。</p> <p>一つ目のグループ「かるやかウォーキング」は、牛飼水辺公園に集合して月2回活動しています。参加できなくなったメンバーも気かけながら活動しており、取材した当日は、参加できないメンバーのお宅まで歩いていきました。つながりを大事に紡ぎながら活動しているところが印象的でした。</p> <p>その2の「南郷パークゴルフ愛好会」は、毎日、しかも午前も午後も精力的に活動しています。日々の積み重ねが健康づくりになっていて、毎日顔を合わせることで見守りあいにもなっていると思いました。</p> <p>その3では、素山の野球場にて、月曜日と木曜日の午前中に活動している「小牛田野球クラブ古希チーム」を紹介しました。突撃で取材しましたが、快く話を聞かせていただき、「ユニフォームを着ると足の痛みを忘れる」と話され、ユニフォームが元気のスイッチになっていると教えていただきました。</p> <p>委員の方々からも、地域の様々な情報がありましたら、教えていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。</p>
伊藤委員	先ほどの「かるやかウォーキング」の写真の場所はどこですか。とても綺麗でいい所ですね。
高橋	牛飼水辺公園の土手です。その日によって古川方面へウォーキングしたり、涌谷方面に行ったり、気分によってコースを変えているそうです。
伊藤委員	こういうグループはいいですね。
高橋	そうですね。健康づくりをしつつ、つながりを育てている姿が印象的でした。

他に、ご意見等ございませんか。ないようですので、次の報告について、次第に載せていないのですが(5)として前回協議会の振り返りをさせていただきたいと思います。

本資料13ページをご覧ください。

協議事項 「日常生活圏域の共通理解と体制整備協議会・地区社協・専門職部会の関係性と役割について」です。本年度1回目の体制整備協議会のグループワークを振り返りまして、日常生活圏域における第1層から第5層までの各層と地域の活動や団体・組織等を整理し、合わせて自助・互助・共助・公助のそれぞれの範囲と考え方についての共通理解を図りました。今後、日常生活圏域の活動等や地域の支え合いを考える場合に、日常生活圏域の5層構造と自助・互助・共助・公助を意識して協議または取り組みをすすめていくこととしました。

生活支援整備協議会・地区社協・専門職部会の関係性と役割については、生活支援体制整備協議会と美里町社会福祉協議会が設置する地区社協組織や会議等(地域福祉力UP情報交換会、美里町地域福祉活動計画策定委員会、多職種連携ワーキング)の関係性と役割について合意形成しました。その際の図は本資料14ページに載せています。

今後、生活支援体制整備協議会と美里町社会福祉協議会が行う会議等で協議された事項について、各種団体や協議会委員が共有し理解し合い、それぞれが両輪となり支え合いの地域づくりを推進していくこととしました。また、生活支援体制の整備を進めるため、生活支援コーディネーターの地域訪問による情報収集、会議等での情報共有、「おげんきですか。」等の広報誌を活用した情報発信機能を強化していくこととしました。

協議事項 では地域福祉力UP情報交換会・専門職部会(第2回多職種連携ワーキング)からみえてきた地域課題について、みなさんに協議していただきました。

その中では、やはり社会的孤立や制度やサービスの狭間の問題などが主な課題として挙げられました。その解決や予防には、地域のつながりが重要なキーワードになると意見が出ました。今後、地域の社会的孤立や予防のために、若い世代にも向けて地域のつながりや、つながる意味について、伝えていく必要があるということを確認しました。世代を問わない事業や啓発の機会を検討し、事業実施とともに「おげんきですか。」等の広報誌による啓発も引き続き強化していくこととしました。

報告は以上になります。

浅野	<p>小野会長と角田委員も先日の発表会に参加いただきました。講演した酒井さんの話を改めて聞き、そこで「2025年問題は、本来は子ども問題なんだ」ということをおっしゃっていて、やっぱりそうなんだなと思って帰ってきました。生活支援コーディネーターが振り返りに書いたように、世代を超えて、若い世代にもつながりの大切さ、つながっていく意味をきちんと伝えていかないといけない。今の高齢者の問題をどうするかということだけでなく、若い世代に対してどうやっていくかというのが、美里町の未来をつくっていくことだと、改めて思ったところです。今後ともコーディネーターを何とか皆さんに応援していただきたいと思います。</p>
小野会長	<p>酒井さんの言うことは、その時、その時によって、新しいことを話しますよね。胸にぐんとくるところがあります。</p>
浅野	<p>介護予防の話も地域包括ケアの話も素晴らしかったです。</p>
小野会長	<p>若い人が聞いたら、なるほどと思うでしょうね。</p>
高橋	<p>以上で報告は終わります。続いて、4. 協議事項に入ります。ここからの進行を小野会長にお願いします。</p>
小野会長	<p>はい。協議事項に入ります。  (1) 地域で行われている健康づくり・介護予防の取り組み状況について、事務局より報告をお願いします。</p>
高橋	<p>はい。本資料15ページをご覧ください。今年度4月から12月31日までに訪問した活動、お茶のみ会になります。下線が引いてある場所は、健康づくりに取り組んでいる活動になります。今年のテーマが「健康づくり・介護予防」でしたが、当初、私の中での勝手なイメージで、『健康づくり・介護予防』 = 『運動』というものがありました。しかし、地域に出向き活動を教えて頂く中で、あらためて考えてみると訪問した先、すべてが介護予防につながっていると実感しました。それに加えて、グラウンドゴルフやパークゴルフなど体を動かすことで介護予防につながっているのだと思いました。  委員のみなさまは、介護予防のイメージはいかがですか。</p>
小野会長	<p>介護予防の捉え方について、みなさん、いかがですか。</p>
佐々木委員	<p>個人的な意見になってしまうかもしれませんが、まずは、気持ちをその気にさせるというのが第一で、その後に、軽運動、この二つが大事だと思います。病は気からというように、気持ちは大事。私の所の施設では月1回、集まって昼食をみんなで作っています。午前中に作って、話し合いをしている。午後から3B体操の講師をお呼びして、1時間ぐらい運動しています。</p>

小野会長	楽しいなという気持ちは大事ですよ。月1回でもあるといい。明日だなど、楽しみになる。
佐々木委員	町広報に記事を掲載させていただき、「見たよ」と来てくれます。
伊藤委員	<p>シルバー人材センターでは、指定管理を受けているが、舞踊・ダンス・ヨガ・短歌などやっています。参加者のほとんどが高齢者ですが、こういった活動、健康でないといけないから、健康のためにいいとみえています。</p> <p>話は飛びますが、今度は豆腐づくり、ジャムづくりなどもしていきます。低学年の子どもと高齢者とのふれあいが大事だと感じています。ハイキングや蔵めぐり等いろいろやっています。今、シルバー人材センターを中心にやっている活動というのは、健康づくりには非常に役立っていて、支え合い・助け合いに役立っていると強く感じています。</p>
小野会長	改めて思うと「予防」ですよ。さまざまな活動に参加している人はいいけれど、参加していない人・できない人はたくさんいますよね。
伊藤委員	そうです。個人的な話になりますが、わたしの妻は犬の散歩を毎日、1時間半ほどしていて、それで健康になっています。引っ込み思案の人に関しては、特に何かのきっかけが必要だと思います。
浅野	引っ込み思案の人のすぐそばに、伊藤委員のような人がいたら、誰かいてくれれば、きっかけになって進んでいくものですよ。
佐々木委員	孤立している人はやっぱりいますか。友達が一人でもいれば、また違ってくる。
浅野	存在そのものがないという人よりも、何か関係が切れて、一人ぼっちの人はいると思います。
横山	地域の方だったり、友達だったり、病気だったり、周囲の人が亡くなったり、結果的に一人になってしまっている人はいると思います。
伊藤委員	シルバー人材センターで依頼者を訪問すると、ものすごくしゃべる。しゃべる相手がないからですかね。孤独な人はよく話しますよね。
小野会長	私の行政区の人で、奥さんを亡くして一人でいた時に、行政区の役員に推薦した。その人が役割を持ったら、全部積極的に参加してくれた。とても几帳面で、何でもやってくれます。
浅野	役割があると、人は違いますよね。
小野会長	健康づくりという面では、結構やっているところは多いですよ。古希で野球をすとかね。古希のソフトボールチームとかね。
伊藤委員	南郷の大柳のグラウンドではよく大会をやっていますよね。

高橋	卓球も多いですね。
角田委員	先日の研修の際、先生が言っていました。介護予防は三つある。そのうちの一つが社会的活動と言っていました。社会的活動があるから、介護予防につながる。社会的活動が、運動よりも上だった。それがすごいなと思いました。やっぱりお茶っこ飲みでも、社会的活動をしていれば、運動につながる。
小野会長	行政区でもお茶のみをやっていますが、話題が何気ない話題でも、また同じ話が始まる。
角田委員	人の悪口はよくないけれど、男性と女性の脳は違うのです。それは男性の考え方で、女性の脳は違うから。だから長生きなのですよ。
小野会長	うちの行政区では男性5～6人が毎日、お茶のみをしていますよ。同じ話題ばかりですがね。例えば、パチンコの話や畑の話をする。これを1時間も2時間もしている。
浅野	でも、このごろ顔色が悪いなど、そういったことに気かけ合えば、見守りになる。
小野会長	でも、「毎日来ないでくれ」と言われることもあります。誰かが来れば、相手をしなければいけなくなりますしね。午前中は掃除などいろいろしなければいけないし「来ないで」と言われたら、今まではいつでも行っていたのが行けなくなる。男性は、進歩・発展する話をしたい。本当はね。
角田委員	男性はだからだめ。女性はテレビのニュースなどを話題に、同じ話をしていても方向転換がいろいろある。自由自在に何度も繰り返している。
高橋	小野会長はその場は楽しいですか。
小野会長	楽しかったです。
伊藤委員	南郷では、シャッター街でお茶のみをしているところがあります。時代が変わってきたと思います。
浅野	社協のさまざまな事業でも「きょういく」と「きょうよう」が大事だと地域の方々にお伝えしています。「きょういく」は今日行くところ、「きょうよう」は今日用事があること、だと。そこが、その方の役割にもなるし、あなたが来るのを待っている人がいるよと。
小野会長	悪気がなく誘っても、わたしはいいから、という人もいます。そのような人はどうしたらいいのか。
角田委員	若い時から独身で親と一緒にだと、隣近所とつながらないでいた人、文句ばかり言っている人などは孤立しがちですね。実際に地域にいます。その後、どうするのだろうかと思う。そういう人ほど、孤独死し

	てしまう。民生委員だと、もしそうなった場合、警察から調書を受けますからね。会えば屁理屈を言われるし、民生委員だと放置できない。どうしたらいいのでしょうか。
横山	実際、私達がかかわる中でもそういう人はいる。距離感が難しい。心がけることとしては、ずっと放っておくということは考えない。たまに、元気かなと見に行くこともある。声掛けしても、返事がないかもしれない。でも、続けることが大事。
角田委員	高齢者の中にも神経質な人がいて、何気なく声掛けした言葉でも、変に意味づけして聞き取ってしまう。そういう意味で言葉をかけたわけでないのにとても気にする人がいる。
小野会長	そういう人だと、顔を見るのも嫌になることがある。そういった場合は、電話がいいのでは…。顔を直接合わせなくても、電話もいいのかなと。
横山	電話だったり、話題だったり、会う回数だったり、ご本人にとってのいい距離感というのは、人それぞれです。その中で、関わりをやめてしまうことにはしないで、見守っていくことが大切。
角田委員	90代の母親の一人暮らしの方なのですが、母親が怪我をして寝たきりになり、自宅でヘルパーさんを利用している。母親の友達が様子を見に訪ねても、同居の子どもが「いいから、来ないで」と拒否している。だから、様子が分からない。
小野会長	お互い、気かけ合うということなのでしょうね。
角田委員	いろいろな人を含んで、巻き込んでいくというか。一人では難しい。
横山	民生委員一人が関わるのが難しいのであれば、私達、専門職も関わるなど、いろいろなやり方があると思います。
浅野	やってみないと、適切な距離感がつかめない。
横山	最初、相手はこわばった表情でしたが、二回目は変わることもあります。
佐々木委員	社協、民生委員、区長、行政の人、介護施設の人、人によっても違うのでしょうか。
高橋	いろいろな人が、多様にいるので、『誰か』とつながることが大切。孤立しないように。
角田委員	一人じゃなく、たくさんの方が声掛けして、孤立を防ぐしかないのかなと最近思う。
伊藤委員	シルバー人材センターとつながりがある一人暮らしの高齢者の中には、自宅のちょっとした修理を一般業者に依頼した際、本人が気づかないうちに高額な費用を支払っていたケースがあった。

	一人暮らしの高齢者の方には、何か困った事があったら、まずはシルバー人材センターに連絡してほしいと必ず伝えている。
小野会長	15ページの内容について、生活支援コーディネーターの高橋さんに聞きます。この取材先は、自分で選んで行っているのですか。
高橋	自分で情報を聞いたところ、社協でやっている地域福祉笑楽校などからの情報を元に取材に伺っています。
小野会長	ありがとうございます。来年度もいろいろなところを訪問し、情報提供してほしいと思います。
浅野	<p>付け加えてお知らせします。今年度は「健康づくり・介護予防」をテーマに進めてきた中で、美里町オリジナルのラジオ体操のDVD製作を行ってきました。ラジオ体操に、町民500人以上が出演してくれました。</p> <p>今の進捗状況としては、すべてのラジオ体操の撮影と声の吹き込みが終了し編集しているところです。3月末の完成を目指し、4月からラジオ体操のDVDを使いながら普及していけたらと考えています。</p> <p>他の自治体では『100歳体操』が大ブームで、最初と最後を評価する必要がある。そうすると、評価する人がいなければいけなくて、役場がするのか、社協がするのかなどを考えたとき、誰もが気軽に取り組めるラジオ体操がいいと思いました。</p>
角田委員	完成したらぜひ、うちの行政区でもやってみたいです。
小野会長	行政区にDVDを渡せば、いろいろな使い道があるでしょう。
浅野	時間は3分くらいです。若いパパ、ママも自ら手を挙げ、参加してくれました。すごいなと思います。
伊藤委員	うちの大柳地区の運動会でもやってみたい。
小野会長	4月からラジオ体操の普及活動が始まります。すぐ効果を求めるのではなく、慌てず、その成果をこの体制整備協議会の集まりで振り返ってみたいです。
浅野	予算の都合上、DVDは100枚ほどしか製作できないので、66行政区と団体などに配りたいと思っています。ラジオ体操に関しては、ラジオ体操の教室もやりました。指導員に習ったチームもあるので、例えばそういうチームの数人で、教えてほしい地域に出向くことも考えています。
小野会長	私が会長を務める行政区長会で、生活支援体制整備事業について、紹介する時間を設けてもよさそうですね。もっと、地域で行われている健康づくり・介護予防の取り組みが挙がってくるとと思います。
浅野	生活支援コーディネーターは一人しかいないから、社協の業務に縛

	<p>られることがある。委員のみなさんと一緒に動くこともお願いしたい。</p>
高橋	<p>よろしく申し上げます。介護予防の捉え方についてですが、介護予防は社会参加が重要でプラスして運動すると、より効果があるという共通理解でよろしいでしょうか。</p>
一同	<p>はい。</p>
小野会長	<p>次に協議事項(2)生活支援体制整備協議会啓発事業について～宝物の見える化・見せる化～について、事務局より申し上げます。</p>
高橋	<p>本資料16ページをご覧ください。本年度も啓発事業を企画しています。先ほども話題にした介護予防の捉え方について、運動だけではなく、お茶のみ会や近所の散歩も含まれることを共通理解できる場を目指したいと思っています。</p> <p>まず、啓発事業の内容についてです。本年度も昨年度と同様に、2部構成で考えています。第1部の基調講演は、仙台白百合女子大学准教授の志水田鶴子先生にお願いしています。第2部のところでは、前回、好評だった主催団体による寸劇を通して話題提供したいと考えています。最後にライブトークを行います。健康づくり・介護予防を実践している方々をお招きします。</p> <p>こういった内容で進めようと考えていますが、みなさん、いかがでしょうか。</p>
小野会長	<p>みなさん、いかがですか。</p>
浅野	<p>ライブトークについてです。発表する人にとっては、この発表を通して、活動がステップアップしていくことも考えられます。パネルディスカッションのように、とうとうと論じるわけではなく、ラフな感じをイメージしています。寸劇も楽しくないと、地域づくりは何も始まらない。</p>
高橋	<p>寸劇のイメージとしては、パターンとしては健康づくりを「一人でやっている人」または「みんなでやっている人」の比較、あるいは、もう一つのパターンとして「一人でやっている人」「みんなでやっている人の中に入ったことでどんなことが生まれたか」という二つのパターンのいずれかをやってみたいと考えていました。委員の方々はいかがですか。</p>
小野会長	<p>健康づくり・介護予防、もう少し笑いを交えながら“色”をつけて、みんなで考えられるようなイベントにしたいですね。</p>
永沼	<p>みなさんから、こんな劇にしたいという意見がほしいです。</p>
浅野	<p>例えばですよ、東京オリンピックにかけてですよ、一人で黙々とト</p>

	レーニングしている人、一方で仲間とお茶飲みをしながらやっている人達の比較。その中で、話を聞いてみたら、実は昔、国体選手だったと。でも、脳梗塞で麻痺が残ってしまい、その麻痺を受け入れられない。みんなと一緒に楽しみたいけれど、自分には麻痺があるし...といったような感じです。ちょっとふてくされた人とかね。いや、「そんなことない、おれも足が痛いんだぞ、あんたも来い」と誘うようなイメージでいます。
伊藤委員	現実的にありますよね。脳梗塞で倒れた人がいる。閉じこもっていた人がゴルフを進められ、始めたら握力がでてきた。みんなと交わらないとだめだと、みんなが分かっているから。
浅野	実際に60歳前の現職で倒れてしまい、私と出会ったときは足を引きずりながら歩いていた人もいます。今の目標は自転車に乗ることだそうです。
伊藤委員	前向きに生きているということですね。
浅野	地域で待っている仲間もいます。倒れたときは、すごく、悔しかったと言っていました。
佐々木委員	何もしないで普通に暮らしていて、健康体でなくなって、いろいろな病気になりますよね。何かやった人は違うよね、という捉え方でもいいのかな。
浅野	体力をつける、維持するというのもあるけれど。今更、東京オリンピックは無理だけど「仲間がいる」とかね。
高橋	そのことによって、介護予防になりますし、社会参加にもなりますよね。
小野会長	ほかにいい案はありますか。
高橋	ちょっと面白いところも、少し入れたらいいと思います。
浅野	2月中には脚本を作って配り、皆さんそれぞれにセリフを練習していただけるようにしたいと思っています。
高橋	資料17ページに記した当日までの流れもご覧ください。脚本のことは記入していませんが、2月中旬までに寸劇のシナリオを考えて、2月下旬から3月に合同練習をしたいと思っています。お声掛けさせてください。寸劇の方向性は大丈夫でしょうか。
浅野	最後は、体力を上げるのは大事だけど「みんながいたからできたよね」「できていないけど、受け入れられたよね」などの方向性でね。
小野会長	見ている人が「仲間っていいよね」と感じてもらえる寸劇にしたいです。
伊藤委員	「仲間がいる」それが大事ですね。知り合いで、胃を全摘した人が

	ゴルフをしています。ゴルフの練習場に毎日来ることで、みんなと触れ合っていたら、どんどん元気になる。今では毎日200球くらい振っている。最初は病人のような顔をしていたけれど、すっかり最近では元気になりました。
小野会長	ただのお茶のみより、好きなものがあるといい。
伊藤	話をしていきながら、生きる糧になる。人と交わる。
浅野	だれでも人とつながってほしいですね。
小野会長	では、見える化・見せる化で寸劇をやるということで、脚本をつくっていただき、できあがったら、もう一度集まって読み合わせをしましょう。
高橋	もう少し、寸劇のあらすじを固めたいです。「一人で黙々とオリンピックに向けて筋トレをしている人」と「運動はほどほどに、お茶のみをメインで楽しんでいる人」の比較がいいのか。それとも、同じ場の設定にして、その人に「声をかけて仲間に加わることで生まれるつながりについて」がいいのか。
伊藤委員	それがいいですね。
浅野	ある意味、一人でやっても悪くない。一人はダメではない。悪いことではない。みんなで作っているところに、時々まぜて、ということもいいと思います。
小野会長	そうしましょう。そして、まず、タイトルを考えますか。そうすれば、中身を考えやすいのでは。前は「お茶っこ会だよ！全員集合！！」でした。
高橋	そうですね。タイトルも考えていただきたいです。
小野会長	一人じゃないのよ、涙は、ハッハーン など、どうですか。
一同	笑
伊藤委員	一人じゃないのよ、いいと思います。
小野会長	一人を否定しているわけでない。つながりを持つことが重要。
浅野	みんなが集うのもいいけれど、というのもこの感じですね。
相原	一人でやっていて、つまらない・寂しいと気づく自分と誘われていたら頑張ったと褒められる自分。
浅野	そうそう。
相原	一人を否定するわけでないけど、たまには自分も褒められたい、誰かの役に立ちたい、みんなで作るととても良いよね、というところもいいかなと思いますね。
浅野	「ねりんピックに出るんだってね。頑張れ。」のような。
小野会長	はい。いろいろ案が出ました。次まで寸劇のストーリーを事務局で

	まとめていただきましょう。
高橋	はい。続いて、サブタイトルはどうしましょうか。介護予防・健康づくりのところメインになってくるので、それがわかりやすいほうがいいかと思うのですが。
相原	みんなで一緒に介護予防とか。
一同	いいですね。
高橋	ライブトークのところも、同じタイトルで進めていいですか。
一同	いいですね。
小野会長	ありがとうございました。次回については、どうですか。
高橋	次回ですが、啓発事業が3月26日の午後からということで、26日の午前中に第4回目の協議会を行いたいと思っています。昨年度と同様です。劇の方は2月中旬までに台本を完成させ、また日程調整させていただいて、お知らせしたいと思います。一度、26日の前に寸劇リハーサルをしたいと思っています。
小野会長	こういうところで、皆さんいかがですか。協力し合ってやることは素晴らしいと思います。次に5.その他に入ります。連絡事項はありますか。
高橋	一つ、委員の方々にお知らせします。美里町の体制整備事業でよくお世話になっている仙台白百合女子大学の志水先生が、中央法規の書籍に美里町の「おげんきですか。」と昨年の「お茶っこ会だよ」を紹介してくれました。よろしければ、ご覧ください。以上です。
小野会長	ありがとうございます。 それでは、本日はこれで閉会いたします。 みなさん、今日はお疲れさまでした。
一同	ありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_